

図書館員の おすすめする一冊

松戸市立図書館

令和5年度版





知る・読む	・	・	・	・	・	・	・	P.1
世界を見る	・	・	・	・	・	・	・	P.3
社会を見る	・	・	・	・	・	・	・	P.4
生きるということ	・	・	・	・	・	・	・	P.7
技術と暮らし	・	・	・	・	・	・	・	P.9
産業と芸術	・	・	・	・	・	・	・	P.11
言語	・	・	・	・	・	・	・	P.15
文学	・	・	・	・	・	・	・	P.17





知る・読む



アレ!にもコレ!にも実はちゃんと名前がある!

食べ物、家の中、街で見るアレ。

いろいろなアレやコレの名前と由来をイラストと分かりやすい文章で教えてくれる本です!

ラーメン丼のふちに描かれている模様。

何て言うかわかりますか?

答えは…この本で!

『モノのなまえ事典 アレにもコレにも!』

杉村 喜光/文, 大崎 メグミ/絵

ポプラ社 2019.11 978-4-591-16421-1

続編も
出ています。

『モノのなまえ事典 まだある!!アレにもコレにも!』

2021.2 978-4-591-16911-7

『モノのなまえ事典 まだまだあった!!アレにもコレにも!』

2022.6 978-4-591-17392-3

『モノのなまえ事典 そんな理由!!アレにもコレにも!』

2023.6 978-4-591-17803-4





何歳からでも哲学できる！（もう哲学してるかも！）

「哲学」と聞くと、何か、難しく、自分には、特に、縁がないものと思っている方も、少なくないと思いますが、この本は、専門用語は使われておらず、身近なものごと（当たり前と思えることも）を取り上げながら、「哲学する」とは、「自分で〇〇〇」ということ、と著者は述べています。（「〇〇〇」は、読み進めると、分かるかと思えます。）

しかしながら、取り上げられているものごとは、突き詰めると容易なものごとではなく、それを分かろうとするには、また、そもそも、著者が述べていることが本当に正しいのか、正しくないのかを見極めるには、まさに「自分で〇〇〇」こととなります。

『14歳からの哲学』

池田 晶子／著

トランスビュー 2003.3 4-901510-14-2



河合隼雄先生からの55のこころの処方箋

日本におけるユング心理学の第一人者であり、箱庭療法をはじめとする心理療法を臨床の現場から広めていった筆者。長年カウンセラーとして臨床の現場に向き合った中で出会ったエピソードに先生の深い考察が語られていきます。

1章は短いのですがエッセンスが凝縮されていて読み終わるたびに

「う～ん」と考え込み、読了後もふとした折に先生の言葉が思い出されたりします。

私は図書館でこの本に出合った後に改めて購入し自分の本棚に入れました。こころの置き薬としておすすめです。

『こころの処方箋』

河合 隼雄／著

新潮社 1998.6 4-10-125224-6



世界を見る



最難関の解読劇に挑む

便利な翻訳機が存在する現在でこそ、人間は文字の違いを容易に解決することが出来ますが、昔の人々は決してそうではなかったでしょう。ましてや、1000年以上誰にも解読できなかった文字であればなおさらです。そんな最大の謎とされたヒエログリフ解読は、ロマンスに満ち溢れた作業であったに違いありません。

たった1枚の石板を頼りに、20年もの年月をかけ行われた当時最難関の解読劇を、ぜひお楽しみください。

『ヒエログリフを解け』

エドワード・ドルニック／著，杉田 七重／訳
東京創元社 2023.1 978-4-488-00397-5



旅の真髄に迫る大型ノンフィクション

第二次大戦末期、中国の奥深くまで「密偵」として潜入した一人の男、西山一三。その果てしない旅と人生を、一年間の徹底的なインタビューをもとに描き出す。

『天路の旅人』

沢木 耕太郎／著
新潮社 2022.10 978-4-10-327523-7

社会を見る



お金の正体が見えてくる



大富豪のボスが中学2年生の佐久間優斗と投資銀行勤務の七海に伝えた、お金自体についての話です。

お金についての3つの謎を軸に、小説形式でわかりやすく説明されています。物価高、老後資金、格差、貿易赤字など話題になるお金が身近になり、その本質に気付かされる一冊です。

『きみのお金は誰のため』

田内 学／著

東洋経済新報社 2023.10 978-4-492-04735-4

経済もつきつめれば人ですから



「経済というと曖昧模糊、でもお金の話だから自分にも直接関わりがある」「アダム・スミスの名言“神の見えざる手”によって経済は合理的にグラフ通りに展開される」という距離感を感じているが、心理学が融合された行動経済学となると話がぐっと身近なものになります。

イラストだけ読み飛ばしても理解できるように配慮された本なので、興味のある箇所から読み進めるのもおすすめです。

『知識ゼロでも楽しく読める!行動経済学のしくみ』

真壁 昭夫／監修

西東社 2022.5 978-4-7916-3127-8



幸せとお金の関係性

お金があれば幸せになれるのか？結婚＝幸せなのか？子どもは幸せの象徴？
知りたくなかった（！？）幸せとお金の関係性を、幸福に関する研究結果を元に分析されています。

『残酷すぎる幸せとお金の経済学』

佐藤 一磨／著

プレジデント社 2023.11 978-4-8334-2518-6



自分が暮らすまちのことを調べたくなる一冊

1970年代以降に投機目的で分譲された地域が千葉県北東部にある。アクセスする交通手段もなく、近くに商業施設や病院などのインフラ施設もないが、わずかに住民は存在し課題も多い。特別な地域のように感じるが、もしかしたら自分の住むまちのはずれにもそんな地域があるのかも…とまちをもっと知りたくなる一冊です。

『限界ニュータウン』

吉川 祐介／著

太郎次郎社エディタス 2022.10 978-4-8118-0850-5



「えらい先生」ではなく、「先生」はえらい！

世の中で「先生」と呼ばれている職業は、学校の教員・お医者さん・政治家・・・などです。

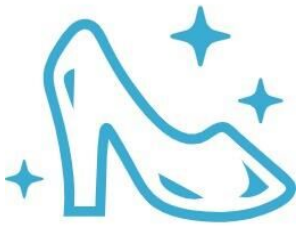
この本は、彼らは「えらい」のだから、「いいから黙って先生の言うことを聞きなさい。」というような内容では、全くありません。

「誰もが尊敬できる先生」なんて存在しないし、昔からいませんでした。何一つ教えてくれなくても、あなたが「えらい」と思った人、それが「あなたの先生」なのです。さまざまな例を引きながら、学ぶことは楽しい、幸せなのだということを教えてくれ、素晴らしい先生との出会いを可能にさせてくれる、常識やぶりの教育論です。

『先生はえらい』

内田 樹／著

筑摩書房 2005.1 4-480-68702-5



服装に注目して絵画をみる楽しさ

中世から近代までのフランスを中心とした絵画の中から、60の職業や人々を選んでその衣服について解説した本です。

医者や衛兵、踊り子といった職業から、居酒屋の給仕、事務員、市民、などテーマごとに絵画を取り上げて紹介されています。衣服の解説とともに、職業についてはもちろん、当時の人々の暮らしや文化、さらに絵画を楽しむポイントや画家についても触れられています。姉妹編の『名画のドレス』もおすすりめです。

『名画のコスチューム』

内村 理奈／著

創元社 2023.5 978-4-422-70145-5



姉妹編も
どうぞ。

『名画のドレス』

内村 理奈／著

平凡社 2021.7 978-4-582-62072-6



タイトルと表紙に惹かれました

江戸時代の住居や暮らしについて、あたたかなタッチのカラーイラストと、会話形式で紹介した本です。

前半では町人の家について、伊達藩から江戸へ三味線を教えに来た菊花が大家さんの案内で見て回り、後半では武士の家について、参勤中の殿のお供で江戸に来た真二郎が旗本の息子の案内で探検する、というストーリー仕立てで紹介されています。

江戸時代当時の資料は火災などでほとんど失われているようなのですが、様々な資料をもとで紹介されているこの本は、わかりやすいイラストとやさしい語り口調によって、実際に江戸のまちを案内してもらっているような気持ちで読み進めることができました。

建築好きの方にはもちろん、時代小説や時代劇が好きな方にもおすすりめしたい1冊です。

『江戸で部屋さがし』

菊地 ひと美／著・絵

講談社 2022.5 978-4-06-517077-9

生きるということ



植物の感性、感覚を知る本

植物は光や色の微妙な違いを知っている。

植物は周囲に漂う香りを知っている。

植物は感触の違いを区別できる。

植物は重力の方向を知っている。

植物は過去のことを記憶している。

植物は言葉こそ話しません、豊かな世界に生きていることを知れる本です。また人間的な意識だけを「心」と考えがちですが、植物には植物次元の「心」があり、細胞で喜びや悲しみを感じているのでは？と考えさせられました。

『植物はそこまで知っている』

ダニエル チャモヴィッツ／著，矢野 真千子／訳

河出書房新社 2013.4 978-4-309-25280-3





分からないものは、分からないものとして、 抱き続けることに耐える！

「ネガティブ・ケイパビリティ」とは、「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」、あるいは、「性急に証明や理由を求めずに、不確かさや不思議さ、懐疑の中にあることができる能力」を意味します。

私たちは、ある出来事、物事に会うと、どうにかして分かろうとし、また、何か答えを求め、それにより、安易に、分かったつもりになることがあると思います。しかし、ときには、容易に分からないものは、分からないものとして興味を抱いたまま、いつか、分かるかもしれない（分からないかもしれませんが）という状態を耐え抜いてみては。

『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』
帝木 蓬生／著
朝日新聞出版 2017.4 978-4-02-263058-2



マインドフルネスを極めたい人におすすめです。

脳を休ませる方法が物語形式で紹介されているので、楽しく学ぶことができます。本の前半がマインドフルネスの解説となっていて、文章だけでなくイラストでも分かりやすく説明されているので、取り組みやすいです。

実践してみると、なんとなく残っていた『疲れ』が格段に減ってスッキリしました。生きていくうえで欠かせない休息、『休める』とはいっても身体だけではないことが実感できるので、睡眠をとっても疲れが残ってしまう方にもおすすめです。

『世界のエリートがやっている最高の休息法』
久賀谷 亮／著
ダイヤモンド社 2016.7 978-4-478-06844-1

技術と暮らし



魔人の料理、作ってみます、か。

ストリーマーとして活動する布団ちゃんの料理本です。

普段はゲーム配信が中心の彼ですが、Youtube チャンネル『魔人の食卓』では料理動画を投稿しており、非常に美味しそうな料理を作っています。

私のオススメは「最強のお雑煮」。トッピングに鰯やいくら、鶏もも肉を使ったお雑煮はお雑煮の概念を変えと言っても過言ではありません。他のレシピも簡単に作れるものが多いので、ぜひこの機会に魔人の料理を作ってみてはいかがでしょうか。

『魔神の一皿』

布団ちゃん／著

宝島社 2023.6 978-4-299-03900-2



パン好きの人におくる辞典

パンにまつわることばを、かわいいイラストを交えて解説する本です。

突然ですが、4月4日って何の日か知っていますか？

正解は「あんぱんの日」です。

明治8年4月4日、お花見をされる明治天皇にあんぱんを献上した日を記念して、この日を「あんぱんの日」と制定したそうです。

たくさんのパンの豆知識を知れる辞典。皆さんも、好きなパンのページを開いてみてはいかがでしょうか。

『パン語辞典』（第2版）

ぱんとたまねぎ／著，荻山 和也／監修

誠文堂新光社 2023.10 978-4-416-62372-5



安心して作れる味です

どの料理もバランスの取れた優しい味になります。

ベスト盤なので基礎的な家庭料理からお店で食べられるようなレシピです。

表紙にもなっている「豚肉のソテーマスタード醤油ダレ」の味付けは絶品です。

『笠原将弘ザ・ベスト 人気料理人が教えるおかず決定版』

笠原 将弘／[著]

テレビ朝日 IP 推進部 2020.3 978-4-88131-325-1



懐かしいレシピに思い出がいっぱい

レシピ本を片手に作っていた頃の懐かしい基本のレシピがいっぱい載っています。

おいしいものを伝えるレシピ集だそうです。

携帯電話で手早くレシピ検索でき動画も見られ、料理を教える事も少なくなりました。こんな料理もあるよと伝えるつもりで我が子にプレゼントしました。

『小林カツ代 COOK BOOK 300』

小林 カツ代／著，本田 明子／監修

新泉社 2019.12 978-4-7877-1925-6



純喫茶に行ってみませんか？

珈琲の香りに幸福感や癒しを感じる。口に含むとホッとする。朝の始まり、仕事の合間、買い物の途中、一息つきたいとき、会話を愉しむとき。

皆さんはどんな場所で飲まれていますか？よく目にする有名店、流行りを取り入れたお洒落なカフェが街中に溢れています。

ご紹介する本では、珈琲だけではなくオリジナルティ溢れる「あまいもの」を主役とする「純喫茶」の名店を紹介しています。店主の拘りが詰まった、どこか懐かしく感じるような、世代によっては新しく感じるかもしれない、そんな空間に出会いにいてみませんか？「珈琲より紅茶やソーダーが好き」という方も「純喫茶」ならではの楽しみがありそうです。

『純喫茶とあまいもの』

難波 里奈／著

誠文堂新光社 2018.7 978-4-416-61798-4



産業と芸術



大切な家族を守るために



日頃から心がけておくこと、被災した場合どのように行動すべきか、犬の応急処置の方法、どのように避難生活を送るかが載っています。

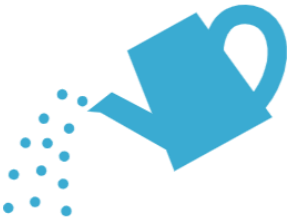
犬も大切な家族、いざというとき守れるように備えましょう。

『犬と一緒に生き残る防災 BOOK』

犬防災編集部／編

日東書院本社 2021.1 978-4-528-02342-0

これであなたも枯らさないひと



“植物を枯らしてしまうひと向けのバーイベント”という設定で、短い漫画を交えながら、植物と上手に付き合うコツが学べます。水やりはもちろん、虫を寄せ付けない方法、植え替えなど、超初心者向けにやさしく解説しています。苦手意識を持っていた人も、植物との暮らしに挑戦してみませんか。

『植物との暮らし方超入門』

ビリ／著，花福こざる／マンガ

山と溪谷社 2022.5 978-4-635-58047-2

この本から世界遺産の旅の一步へ



日本・海外の代表的な「文化遺産」と「自然遺産」を厳選して、写真とわかりやすい地図・イラストで紹介。データは2023年9月のものです。

自然の広大さ、古に生きてきた人々に思いを馳せて、歴史の学び直しをしたくなる本です。この本を足掛かりに、机上で世界遺産の旅に。

また現地に足を運べたら最高なのでしょう。

『世界遺産必ず知っておきたい150選』

「世界遺産150選」編集部／著

メイツユニバーサルコンテンツ

2023.10 978-4-7804-2831-5



会話形式で読みやすい！人気旅行添乗員と名画

ルーヴル、メトロポリタンなど、世界の美術館に行き、実際にガイドしてもらっているように読めます。美術解説だけでなく、添乗員ならではの各地の観光情報から旅のスケジュールなど満載です。美術好き、旅行好きにもおすすめです。

『死ぬまでに観に行きたい世界の有名美術を1冊でめぐる旅』

山上 やすお／著

ダイヤモンド社 2023.10 978-4-478-11751-4



知っていると見方が変わる 絵に込められた物語

美術館で一見すると「これいったいどんな絵なんだろう？」と思う絵画に込められた物語を易しく解説しています。主に人物画を紹介しており、表情だけでなく、眼差しや、その先に見えているものを想うと、より楽しく読めます。

『つい人に話したくなる名画の雑学』

ヤスダコーシキ／著，田中 久美子／監修

KADOKAWA 2023.11 978-4-04-897673-2



「サザエさん」とともに歩んだ人生

日曜夜6時半からフジテレビ系列で放映されているテレビアニメ『サザエさん』の原作者である長谷川町子についての評伝です。『サザエさん』誕生の舞台裏、町子本人と家族の人物像、昭和30～50年ごろの庶民の暮らしぶりなどが書かれています。『サザエさん』といえ、明るい大家族像が頭に浮かびますが、生涯独身だった町子がどうしてこのように日常の風景をきっちり描くことが出来たのか、この本を読めばよくわかると思います。年末年始が近づきました。友人や家族で囲らんする機会を、より一層大切にしたい。そんな気分にもなりました。

たまには日曜夕方にテレビも観てみようかなあ・・・。

『長谷川町子』

筑摩書房編集部／著

筑摩書房 2014.8 978-4-480-76612-0



“弾きやすい” ピアノ演奏とは？

ピアノを続けていると、どんなに練習していても苦勞する部分、繰り返し指摘されてしまう部分があり、弾く楽しさより悩みや苦勞を多く感じてしまうことはありませんか？

この本では、身体の使い方や弾けない原因への気づき方が書かれています。自分の”弾きにくさ”を見つめ直し、より”弾きやすい”演奏を目指す方へ、おすすめの一冊です。

『からだで変わるピアノ』

宇治田 かおる／著

春秋社 2023.10 978-4-393-93613-9



バンドマンのがん闘病記

バンド『オナマシ』イノマーのがん発覚から亡くなるまでのがん闘病記です。

私は彼が亡くなる 2 か月前に開催したライブ『ティッシュタイム・フェスティバル』に参加し、彼の最期の命の灯のようなものを見たからか、この本を読むとつらい闘病のなか、このライブをすごく心待ちにしていたんだなど切ない気持ちになりました。

また、この本は彼が書いた日記の文章をテキスト化しておらず、そのまま書籍化しています。そのため、読みづらさがある反面、病状が悪化するにつれて、感情が文字にも表れており、口腔がんのつらさが如実に理解できる貴重な一冊です。

『BAKA IS NOT DEAD!! イノマーGAN 日記 2018-2019』

イノマー／著，ヒロ／編

国書刊行会 2022.12 978-4-336-07427-0





WBC 優勝を振り返る

大谷翔平、ダルビッシュ有、ヌートバー、佐々木朗希…ここには書ききれないほどのタレント揃いだった 2023 年の WBC を振り返る一冊です。

写真集としてのクオリティもさることながら、出場選手 1 人 1 人にスポットを当てており、各選手のファンにもオススメです。WBC の感動をこの 1 冊でまた味わってみませんか。

『WBC 2023 THE BRIGHTEST MOMENT 侍ジャパン頂点の記憶。』
文藝春秋 2023.5 978-4-16-008268-7



“怪物” が歩んだプロ野球人生

“平成の怪物” “松坂世代”。そのように表現されるほど、圧倒的な活躍を見せた松坂大輔投手本人が、初めて自身の言葉で野球人生を語ってくれました。

様々な重責を乗り越え、“怪物” と呼ばれた選手だからこそたどり着いた景色は必見です。

『怪物と呼ばれて』
松坂 大輔 / 著
SB クリエイティブ 2023.4 978-4-8156-1711-0



言語



言葉の事故を起こしていませんか？



どのように伝えるかで、物事は大きく変わります。自分が思う正義や公正を論破するのは気持ちいかもしれないけれど、正しいことを伝えたはずなのに大事故につながることもある。本書はこれから発する言葉が一方通行にならずに、うまく乗りこなしていきたい人におススメです。

『<公正>を乗りこなす 正義の反対は別の正義か』
朱 喜哲／著
太郎次郎社エディタス 2023.9 978-4-8118-0860-4

世界の最初の文字をイラストで



普段使っている「文字」の起源に興味はありますか？
メールやメッセージで人とやり取りするとき、学習の書籍を読み込むとき、自分の考えをまとめ相手に伝えるとき、「文字」はあらゆる場面で活躍しています。
「文字」は世界各所でどのように生まれ、また考案者はどのような人だったのか？
多種多様な「文字」の起源を、イラストで眺めてみませんか。

『世界文字の大図鑑 謎と秘密』
コンスタンティノフ／文・絵，青柳 正規／監修，
若松 宣子／訳
西村書店 2023.10 978-4-86706-045-2



電子化の波を乗り越える異体字の世界

苗字ランキング常連の「高橋」さん。「高」の字が違う「高橋」も比較的よく見かけるのではないのでしょうか。このような標準的な文字に対して字体の異なる文字を異体字と呼ぶそうです。

この本では、時代を経る中での文字の変化や、特にパソコンや携帯電話が普及し、文字を書くよりも変換することが多くなった時代に異体字が残り続ける過程を、その渦中にいた著者が描いています。

見たことのないような漢字がたくさん載っていて、眺めるだけでも面白い本です。一度手に取ってみませんか。

『異体字の世界 旧字・俗字・略字の漢字百科』

小池 和夫／著

河出書房新社 2013.9 978-4-309-41244-3



猫の言葉は、鶏言葉でもあり、恐竜言葉。

タイトルに惹かれて開いてみた一冊。

フィンランドについて知らなくても、楽しく読めること間違いなし。

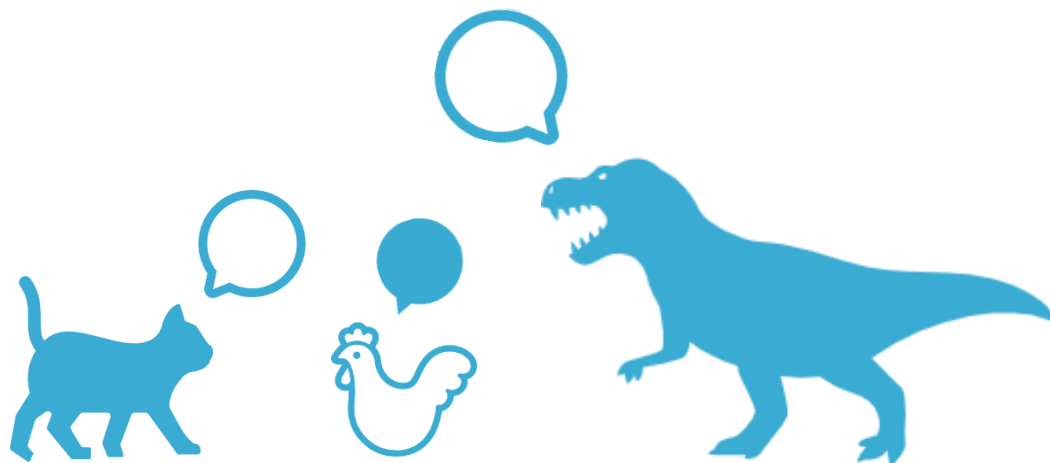
この本は語学書ではなく、フィンランド語やフィンランドでの生活についてのエッセイ集です。

フィンランド語が猫の言葉ってどういうこと？それでいて鶏？恐竜？気になった方はぜひ、この本を開いて確かめてみてください。

『フィンランド語は猫の言葉』

稲垣 美晴／[著]

KADOKAWA 2019.4 978-4-04-107538-8



文学



小川哲という才能

ここ数年で一番ハマった作家です。直木賞を受賞した「地図と拳」もぜひ読んでいただきたい秀作ですが、図書館だと順番待ちで少し時間がかかるので、今なら割とすぐ借りられる本作がおすすめです。

本作品はまず史実調査が非常に精緻で、カンボジア現代史の実際を知ることができます。半世紀前に地球上でこんな世界があったのかと驚愕します。本作は歴史小説であり、壮大な SF 小説でもあり、さらにミステリー小説でもある小川哲という才能が存分に発揮された力作です。私は普段小説を読み返すということはないのですが、この小説はいま二回目を読んでいるほどお気に入りです。

『ゲームの王国（上）・（下）』

小川 哲／著 早川書房 2017.8

（上）978-4-15-209679-1

（下）978-4-15-209701-9



普通って、何？

彼氏なし、36歳未婚、大学卒業してからはコンビニのバイトで18年目の女性主人公。完璧なマニュアルの存在するコンビニで働くことは、毎日の安らかな眠りをもたらしてくれる。コンビニは私を世界の正常な「部品」にしてくれる。そんなある日、新入り男性にコンビニ的な生き方は「恥ずかしくないのか」と提示され、主人公はコンビニで生きる力を見つめ直す。

読了後に普通とは何かを考えさせられる一冊です。

『コンビニ人間』

村田 沙耶香／著

文藝春秋 2016.7 978-4-16-390618-8



大人向けの絵本という感じのほんわかするお話

9才のさきちゃんとお母さんの日常にほのぼの、クスツとしながら、さきちゃんのことを同じ目線で理解しようと、わが子を思う母の愛情を感じられる心温まるお話です。

おーなり由子さんの可愛らしいイラストにも心癒されます。

『月の砂漠をさばさばと』

北村 薫／著，おーなり 由子／絵
新潮社 2002.7 4-10-137327-2



心を奪われた図書館

「図書館が主人公の小説を書いてみるっていうのはどう？」

作家の〈わたし〉は年上の友人、喜和子さんに提案されたことをきっかけに、二人には穏やかな交流が始まり、帝国図書館の歴史をひもとく小説を書き始める。喜和子さんの人生に隠された秘密を辿り、日本初の国立図書館の歴史が交差する。昭和生まれの女性ふたりが上野で出会い、心を奪われた図書館の誕生を綴る傑作小説。

『夢見る帝国図書館』

中島 京子／著
文藝春秋 2019.5 978-4-16-391020-8



もはや語ってくれなくなった若者たちのリアル

DV や貧困、閉鎖的な村での差別、中学でのいじめという最悪な環境から抜け出そうとする著者の行動力に感動すら覚えます。今を生きる若者の苦労がリアルに表現され、読み終わると周囲の若者にも思わず優しくしてしまうかも。図書館の存在が主人公の救いのひとつになっていることが救いです。重い内容にも関わらずサバサバとした率直な文章なので、終わりまで一気に読むことができます。

『死にそうだけど生きてます』

ヒオカ／著 CCCメディアハウス
2022.9 978-4-484-22213-4



困難に立ち向かう黒人少女主人公のファンタジー

「12 才の少女アマリは、半年前に行方不明になった兄を探しだすため、その存在すら知らなかった超常界に足を踏み入れ、自分がじつは魔術師だという、驚愕の事実を知らされる。『ここに居場所を見つけて残って見せる』と心に誓う。ひとえに兄を思うがゆえの、この負けん気の強さと孤軍奮闘・・・」 訳者あとがきより。自分では、どうしようもないことで、なじられて、それでもくじけずがんばれる子、アマリ。

表面的には“リーダー養成キャンプ”だが、兄も参加したことのある“サマーキャンプ”に参加し、そこで波乱万丈の展開が待っている。

“本当の友だちがほしい” 信頼とうらぎり、どんでん返し、そしてついに真実が！
「アマリ、外に出て、いろんなことをして、外の世界をたくさんみておいて」
少女の成長物語。

『アマリとナイトブラザーズ (上)・(下)』

B.B. オールストン／作, 橋本 恵／訳

小学館 2023.10

(上) 978-4-09-290664-8

(下) 978-4-09-290671-6



考える力を育む一冊としておすすめします

本書は、動物たちが人間の圧政からの解放を求めて反乱を起こし、自分たちの農場を運営する物語です。当初は、理想主義に基づく共同体を目指しますが、次第に権力闘争と独裁、腐敗が進行します。この物語は、独裁政治や権力の乱用、そして理想と現実のギャップに対する批判を込めています。現代のさまざまな出来事や変化に照らし合わせて読むと、本書をより楽しめるかもしれません。

『動物農場』

ジョージ オーウェル／著, 山形 浩生／訳

早川書房 2017.1 978-4-15-120087-8



ほっこりする“しゅくだい”の絵本とは…

もぐらのもぐくん学校で“だっこ”のしゅくだいが出ます。「やだ～」なんて言ってたけどルンルン気分で帰ります。…でも赤ちゃんのお世話で忙しいお母さんになかなか言い出せません。やっと伝えるとお母さんもお父さんもおばあちゃんもぎゅ～っと何度も何度も抱きしめてくれます。次の日“しゅくだい”をやってきたみんなは元気いっぱい！

こんなステキな“しゅくだい”やりたいな～。

いもとようこさんのやさしい絵もほっこり。

『しゅくだい』

宗正 美子／原案, いもと ようこ／文・絵
岩崎書店 2003.9 4-265-03485-3

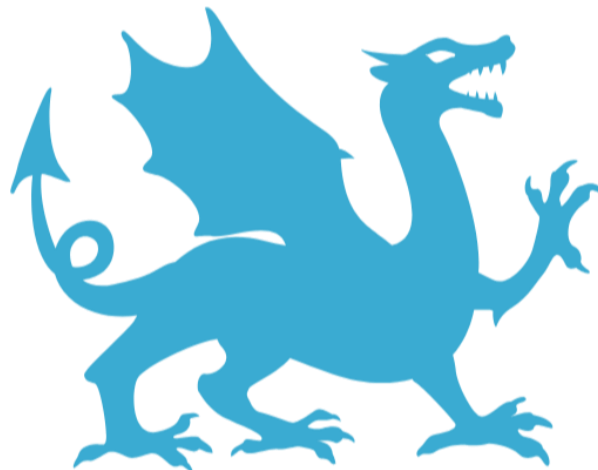


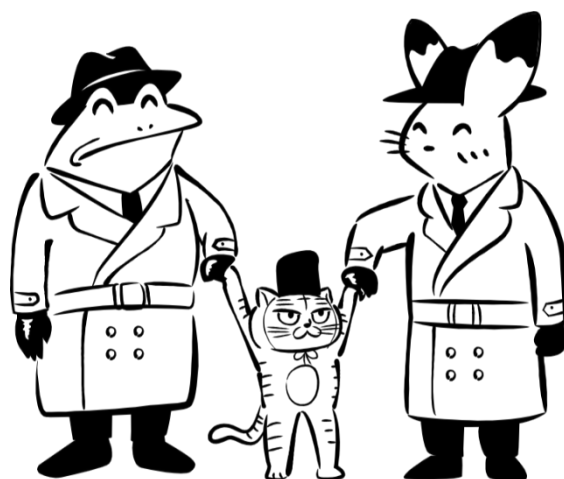
みんななかよし

13人のひめさまと大きなドラゴンとの心あたたまる絵本です。ドラゴンの大きなおなかの中には、12ひきのこどもがはっていました。ドラゴンのこどもたちとひめさまはなかよくなり、13ばんめのひめさまはドラゴンママとなかよく森に帰っていきました。こどもたちと動物とのふれあいが大切であることを感じる楽しい絵本です。

『とびらのむこうにドラゴンなんびき?』

ヴァージニア・カール／作・絵, 松井 るり子／訳
徳間書店 2022.9 978-4-19-865531-0





図書館員のおすすめする一冊（令和5年度版）

令和6年3月発行

編集・発行 松戸市立図書館

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 2060

TEL 047-365-5115